



障害をもつ幼児の保育(22)

—この子と出会ったとき—

津守

真 (M)

津守

房江 (F)

言葉がなくても思いは通じる

コミュニケーションという言葉はもう日本語になっていて、国語辞典によればコミュニケーションというのは「言葉や文字や体の動きによって、他の人に『伝達する』ことを言う」とあります。現実には言葉を話さない人とどうやってこちらの思いを伝えたらいいのでしょうか。

子どもの感じている世界を受け取る

F あなたはいつも「言葉がなくても子どもたちは何でも分かっている」と自信を持って言われますが、その根拠というかコツは何ですか。

M 子どものそばにいれば、その子の感じていることは

大抵分ります。分からないときは子どもと同じように子どもの速さで歩いてみたり、子どもが手を挙げたらこちらも手を挙げたり、同じように動いてみるともつとよく分かります。

F 赤ちゃんが幼いころは、笑っていると嬉しいのだろうと思って私も嬉しくなるし、不快な表情を見ると、どうしたのだろうと考えて心配しました。『子どもの心を受け取る』ことの始まりがこんな素朴なところから出てくるのですね。

M どんな人でも心を感じたことを何かで表現します。以前私が「子どもの行動は心の表現だ」ということを発見したとき、行動の見方が変わりました。なんだか理解できなかった子どもの行動の内側には心の感動や、喜びや悲しみや悩みなどが詰まっている。言葉や文字であらわれない子どもでも心を感じることは私と共通なことが多いのです。

F だから「子どもたちは何でも分かっている」と自信

を持って言えるようになって来たのですね。

人間が生きているということは、子どもも大人も強いものも弱いものも感じる内側があり、それを表現することだとも言えますね。それを受け取ってくれる人がいるときその人にとって意味が出てくるのでしよう。

遊びの中で子どもが感じること

電車が繋がらないとき

F ある育児相談で二歳一カ月の子がプラレールを繋げようとして、ちよつとでもはずれると怒ってレールを投げて大変だということです。プラスチックのおもちゃは古くなると割れやすく、繋がらなかつたり、具合が悪くなることが多いのです。その子の普段の様子を尋ねると、お母さんから見て困ったことや止めなければならぬことがたくさんあるようです。お母さんは子どものことを心配してみている。レールが繋がらないで苛立つ子どもには、お母さんとの間で心が繋がらないことが多いので

はないかと私は思いました。レールが繋がらないということが、この子にとって特別に我慢がならない重要なことなのでしょう。

M 愛育学園の小さい子のクラスで保育していたとき、離れてしまう電車やレールをセロテープで何回も繋いだことを思い出します。それくらい子どもにとっては繋がるかどうかは真剣なのです。電車という「物」がつかえるだけでなく、人との繋がりと重ねてイメージしています。離乳のときや、自分でやりたい気持ちが出て来たときは、お母さんとの繋がりが変化している時期と言えるでしょう。物質のイメージが子どもの日常の大切な問題と重なって心に蓄えられる。

この子も、何でもお母さんに依存するのではなく、繋がらない時があることをプラレールで練習しているとも考えられる。

F そう考えるとプラレールが繋がらないということも、子どもの成長にとっては意味のあることかもしれない

せんね。

でも、育児の実際家の私から見ると（笑い）、この子の生活の中では苛立つことがとても多くて、落ち着いた穏やかさを育てるといふ点では、複雑なレールのおもちゃはもう少し時間がたつてから与えた方がいいと思うのです。

電車が繋がる

M うちによく来る二歳過ぎの孫は、お休みの日に父親と電車を見に行くのを楽しんでいます。東京駅のホームで東北新幹線の『はやて号』と山形新幹線の『こまち号』の切り離しのところが繋がっているのを見た。

ちよつと見ると二つの新幹線がキスしているみたいで「お鼻とお鼻をくっつけているねえ」と言う言葉が心に残ったようです。それまでほつぺたにチュツとされるの



が嫌いだったのに、それを見て以来、おとなしく肌を触れ合うようになったということです。

F 自分が電車になったような気分が嫌なことが乗り越えられたのでしょうか。

すれ違い

F その子はこのような経験の中で大人がはっとするような言葉を言うことができました。「すれ違い」です。

M 東京駅の新幹線のホームで二台の列車がすれ違うのを見てとても心に残ったのでしょうか。その子が、空に白い雲と黒い雲がゆっくりと動いているのを見て「すれ違い！」と言いました。イメージとして心に残っていたものを、言葉として言うことで、自分でもはつきり分かり、言葉として定着することになったのかと思います。

「すれ違い」ということも電車や空に浮かぶ雲について言うときは、大人はすんなりと受け取れるけれど、心の

問題となると子どもの置かれている状況をよく考えなければならぬですね。例えば、年下のきょうだい成長して来て障碍を持つ上の子を追い抜いてしまうことはよくあることです。そんなときは上の子の不安な気持ちをしっかりと受け止めなければならぬでしょうね。

F 自分の後から繋がってくると思っていた弟や妹が、自分とは違う学校に行くようになって、追い越されすれ違ふときの上の子の気持ちはどんなでしょう。言葉で表せない子どもも原風景として心に残るでしょう。このような悩みや喜びを子どもたちが遊びの中で表現している。それを注意深く見るとき、あなたがいつも言われる「子どもは言葉が分からなくても事柄は何でも理解している」ということに共感出来ませぬ。

行き止まり

M 私が忘れられないのは一人の男の子が幼稚園から紹介されて、週一日だけ愛育学園の幼児のクラスに参加し

たときのことです。この子は水の流れに興味を持って、水が何処から来て何処へ流れて行くのかに興味を持ちました。そのうち小学校に進学するころになりました。家族もとても心配して、スタッフの誰彼をつかまえては普通の小学校に進めるかどうかを相談しました。その言葉は本人の耳にも入っていたのでしょうか。そのころ、この男の子がブラレールを使ってやった電車の遊びは印象深いものでした

F ああ、片方のレールが繋がっていないで、壁に向かっていてるのでしよう。電車が走つてくるとレールを突き抜けて壁にぶつかってしまふ。はじめは気が付かなかったけれど、この子が小さい声で「行き止まり」と言っているのを聞いて、この子が行く先に希望を感じていない、むしろ不安を感じていることに気が付いたので

M このほかにも『別れ道』とか『危険』『止まれ』など電車遊びには危険や不安を表しているものが多いです。

ね。

人生の道と重ねて

F 今回は電車遊びに出て来る言葉を取り上げてみました。子どもが電車遊びが好きなのは、自分の思いと重ねるからでしょう。あの力動的な姿に憧れ、車が繋がることに心を引かれる子、行き止まりに不安を感じる子、すれ違いに自分と他の人との関係の不安を感じる子、など大好きな遊びの中に人生の大切な出来事を隠喩として感じ取る。言葉がないとコミュニケーションが出来ないと考える事は間違いだと思うのです。

始めに話した「言葉がなくても互いの思いは通じる」ということを再確認しましたね。